

計画3 【2年次に『絵・彫刻など』の「つくる」と『デザイン・工芸など』の「描く」、
3年次に『絵・彫刻など』の「描く」と『デザイン・工芸など』の「つくる」を中心にした計画】

第2学年		年間35時間 ・3学期制（1学期12時間・2学期14時間・3学期9時間）／2学期制（前期18時間・後期17時間） ・前期12時間の後、夏休みが入る想定				
学期	時数	題材	ページ	主な活動	備考	
1学期 12時間	前期 18時間	2	感じたことを話し合おう 朝起きてから夜眠るまでの美術	2-4 5-7	鑑賞 鑑賞	
		3~4	形と色の挑戦 絵や立体が動き出す 光と影で遊ぶ	32-33 36-37 38-39	絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		6~7	メッセージを伝えるポスター	50-53	デ・工 [描く]	
2学期 14時間	後期 17時間	5~6	想像の生物をつくる	20-21	絵・彫 [つくる]	
		1	原寸大で鑑賞しよう 鳥獣花木図屏風	48-49	鑑賞	
		4~6	情報を整理して伝える 暮らしの中のキャラクター	54-55 58-59	デ・工 [描く] デ・工 [描く]	いずれかの題材を指導
3学期 9時間	後期 17時間	1~2	みんなのためのデザイン 暮らしやすい町づくり 夢を形にするデザイン	56-57 70-71 72-73	デ・工 [つくる] デ・工 [描く] [つくる] デ・工 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		4~6	墨の世界を体感しよう 浮世絵から学ぶ江戸の職人技	18-19 22-23	絵・彫 [描く] 絵・彫 [描く]	いずれかの題材を指導
		4~5	躍動感を捉えて 環境とともに生きる彫刻	30-31 34-35	絵・彫 [つくる] 絵・彫 [つくる]	いずれかの題材を指導
		1	北と南の風土から 絵巻物を楽しむ	62-63 101-103	鑑賞 鑑賞	いずれかの題材を指導

※網掛け部分は、重点的に考える題材として位置づけた。

※「いずれかの題材を指導」では、複数の近接した題材の中から教師が一つに絞ったり、関連して指導したりすることによって、題材の時間を確保することができる。

「環境とともに生きる彫刻」 (P34~35) 題材のねらいと指導のポイント

「環境とともに生きる彫刻」は、環境と調和し共生する彫刻について理解を深め、置く場所と作品の関係をイメージしながら構想し、スケッチや立体作品などにあらわす題材である。作品と設置場所との関係の大切さに気づかせ、形や色彩、材料や光の感じ、それらがもたらす感情などの視点から表現の構想を練ることが大切である。

まず、P.34~35に掲載されている街角や公園など公共空間に設置された彫刻作品を鑑賞し、作家の構想と周りの環境が、どのように触発しあって成立しているかを感じ取り、考えたことを話し合わせる。その際、作品の形や色、材料や大きさなどと、作品が置かれた場所や地形の特徴、空間の広がりなどに注目することが大切である。

生徒の実態として、これまでの学習を通して自分の思いや感じ取ったことをあらわす経験はあっても、作品とそれが置かれる場所との関係を考えてあらわすことは少ないと思われる。作品と場所の関係を考える方法も十分に理解しているわけではない。そこで、P.34のQ「作品と場所の関係をイメージするには、どうすればよいだろう？」のように問いかけ、P.35の生徒作品の鑑賞を通して、人型の模型や設置する場所の写真を添えてみる方法などに気づかせる必要がある。

できあがった作品を鑑賞する際は、作品自体のよさやおもしろさにとらわれるのではなく、作品と場所との関係に注目しながら鑑賞するように指導したい。

第3学年		年間 35 時間 ・3学期制（1学期 12時間・2学期 14時間・3学期 9時間）／2学期制（前期 18時間・後期 17時間） ・前期 12時間の後、夏休みが入る想定				
学期	時数	題材	ページ	主な活動	備考	
1 学期 12 時間	前期 18 時間	1	特別展示室 ゲルニカ, 明日への願い	40-45	鑑賞	
		3~4	見方を変えて 情景, 気持ちを重ねて	14-15 16-17	絵・彫 [描く] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		6~8	心をともしあかり 手づくりに込める思い	60-61 74-75	デ・工 [つくる] デ・工 [つくる]	いずれかの題材を指導
2 学期 14 時間	後期 17 時間	6~8	ともにつくる喜び 発想のためのスケッチブック ひびのこづえ	46-47 78-79	絵・彫 [描く] 鑑賞	
		1	原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像	24-25	鑑賞	
		4~5	季節感のある暮らしを楽しむ 包みの工夫, パッケージデザイン	64-67 68-69	デ・工 [つくる] デ・工 [つくる]	いずれかの題材を指導
3 学期 9 時間		1	原寸大で鑑賞しよう 平螺鈿背円鏡	76-77	鑑賞	
		4~6	自画像, 今を生きるあなたへ	26-29	絵・彫 [描く]	
		3~4	空想の世界を旅する あれ? どうなっているの	8-11 12-13	絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		1	中学校美術, 最後の時間に	104-105	鑑賞	

※網掛け部分は、重点的に考える題材として位置づけた。

※「いずれかの題材を指導」では、複数の近接した題材の中から教師が一つに絞ったり、関連して指導したりすることによって、題材の時間を確保することができる。

「季節感のある暮らしを楽しむ」(P64~67) 題材のねらいと指導のポイント

「季節感のある暮らしを楽しむ」は、形や色彩の性質とそれらがもたらす感情を生かして、四季折々の季節感を取り入れた生活の中の工芸品を制作する題材である。

日本では古くから四季折々の美しさを感じ取る心や、季節の変化を楽しみ、それを慈しむ気持ちが大切にされてきた。人々は自然の移ろいの中で日々生活していることに喜びを感じ、季節感を生活に取り入れたり、演出したりして暮らしを豊かにしてきた。和菓子や生け花、着物や扇子、うちわなどのデザインはその典型である。P.64~67に掲載されている作品の鑑賞を通して、季節感や自然の美の魅力を感じ取り、制作の意欲を高めたい。

和菓子をデザインする授業の場合は和菓子の形や色に注目して鑑賞し、自然や季節感がどのように取り入れられているかを話し合わせる。P.64のQ「春のイメージには、どのような形や色がふさわしいだろう?」のように問いかけて発想を促し、P.66の[みんなの工夫]を参照するなどして、自分が住んでいる地域の季節感をテーマに構想を練り、地域の自然や天候、四季の行事などを取り入れた和菓子をつくりだすことが大切である。

このように鑑賞と表現を通して、今も私たちの暮らしに息づいている伝統を継承し、新しい文化を創造しようとする気持ちを育てたい。